

羅 針 盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行い、生徒のニーズに対応した教育を実践していますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。
	2 生徒の主体的な学びを引き出す特色ある教育活動を行っていますか。	② 学系、コースの教育活動(ボランティア活動や校外清掃活動などの奉仕作業を含む)に対して、主体的に取り組めたと自己評価する生徒が80%以上である。
	3 地元企業や地域と連携し学校外実習や体験学習を積極的に実施していますか。	③ 利根実版デュアルシステムや、長期就業体験、小中学校との交流活動・出前授業などに満足感を持つ生徒が80%以上である。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 授業が理解でき、学習に対する満足感・達成感を持つ生徒が80%以上である。
	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 基礎学力診断テスト実施前や定期テスト1週間前から、計画的にテスト勉強に取り組む生徒が50%以上である。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な生徒指導を行っていますか。	⑥ 問題行動で指導される生徒や、不登校、転学者、退学者が前年度比の50%以下である。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていますか。	⑦ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていると認識している生徒が80%以上である。
	8 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 1力年皆勤者が生徒数の40%以上である。
	9 充実した部活動が行われていますか。	⑨ 部活動に加入している生徒が80%以上で、その活動に満足している生徒が80%以上である。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 就職希望者の90%以上が年末までに採用内定する。進学希望者については、十分な学校研究を行わせ、出願した大学等に全員合格する。 ⑪ 進路の手引きや進路だよりなどの学校からの進路に関する配布物に目を通している生徒や保護者が80%以上である。
	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 また、進路セミナーや企業又は上級学校の見学を実施し、進路意識が高まったと感じる生徒が80%以上である。
	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校の情報発信に、生徒・保護者の80%以上が満足している。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑭ ICTが学習に有効であると感じる生徒が80%以上である。
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ ICTが業務に有効であると感じる職員が80%以上である。

方 策
農業系ではなくり募集を行うなど、入学時からアンケートや個人面談等を実施し、きめ細かい指導を繰り返すことにより、希望するコースで目標をしっかりと定めて学校生活を送れるようにします。
地域社会の行事に積極的に参加させ、地域とかわかるとともに、課題を見つけ出させ、解決方法を考えさせ、解決に結びつけます。
地域との連携を図り企業実習や農家実習を行います。また、地域の幼小中学校や特別支援学校等と交流を深め、德育教育への取り組みや言語活動を意図的・計画的に取り入れていきます。
多くの普通科目において、習熟度別学習、少人数学習、選択学習を導入し、生徒一人ひとりに指導の手が入りやすい授業を行います。また、授業展開で生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面を多く設定します。
基礎力診断テストの結果を用いて組織的に学習ゼミを実施したり、定期テスト1週間前には部活動を停止して勉強に集中できるように、工夫して学習習慣や態度を養います。
週1回の学年会議、月1回の生徒指導会議を開催し、生徒の情報共有し職員の共通理解を図ったうえで、一人ひとりの生徒に対応した段階的な指導を実施します。挨拶・身だしなみ・遅刻指導を中心に毎朝校門指導を実施し、改善が必要な生徒にはその場で指導します。 また、特別支援及び教育相談係の会議を定例化し生徒の情報を共有するとともに、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に問題を抱えた生徒を支援する体制を強化します。
面談や学校生活に関するアンケートから、いじめの早期発見に向けて組織的に取り組みます。
家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。
部活動等の一層の活性化を図り、生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面をより多く設定します。
1年生の入学段階より3年間を通して体系的な進路行事などを計画し、生徒の進路実現をサポートします。 また、教職員による企業等訪問の実施や、大学・看護系進学希望者には進学対策の補講等を実施します。 就職や進学の最新の状況、学校での進路行事の様子などの適切な資料を進路だよりとして保護者会などで提供します。また、進路に関心のあることをアンケートで調査して提供資料に反映させます。
総合的な探究の時間やキャリアパスポートへの記録、HR活動を通じ、「自己の在り方・生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる機会を設定し進路に対する意識の高揚を図ります。 また、企業見学や学校見学を有効なものとするために、見学のための事前指導を行うとともに、見学のポイントやワークシートなどを提供し、外部講師による進路セミナー等を実施し、進路意識の高揚を図ります。
学校だよりやホームページ、オクレンジャーなどにより、生徒の活躍や学習活動の情報を保護者や地域に発信していきます。
授業や日常の学習活動の中でICTを適切に活用していきます。
日常の業務の中で、ICTを使用することで効果的な業務ができるようにしていきます。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
A	A	自分の学校が好きだと答えている生徒が92.5%であり、具体的数値目標の80%に達しています。新型コロナウイルス感染症対策で2学期から分散登校となりましたが、生徒たちは自宅にいながらオンラインで授業に参加しているため、学ぶ意欲や学校生活への充足感を得ているのではないかと考えられます。	A	A	自分の学校が好きだと答えている生徒が第2回アンケートでは89.6%であり、具体的数値目標の80%に達しています。アンケートで好きな理由として、校内での授業が充実しているという回答が伸びました。生徒はオンライン授業よりも対面授業の方が学習しやすいと感じていると思います。
B	A	新型コロナウイルス感染症対策により、多くの行事が中止や規模を縮小したのとなってしまったためと思われま。行事の代替案などを検討し、生徒の学ぶ意欲の向上を目指します。	A	A	2学期終業式の放課後に校外清掃活動を実施したことにより、地域貢献に主体的に取り組めたと感じている生徒が多くなりました。その結果、具体的数値項目80%を超えることができました。
B	B	新型コロナウイルス感染症対策により、今年度は夏期休業中に希望生徒による短期インターンシップの実施となりました。今後も関係企業等と情報交換を図りながら可能な範囲で生徒の活躍を支援できる場面を検討します。	B	B	地元企業や外部講師などによる進路セミナーは生徒の進路意識向上及び進路選択に効果を上げています。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら予定した行事を実施しました。今後もコロナ禍の影響を考慮し、柔軟な運営・対応が出来るよう取り組んでいきます。
A	A	緊急事態宣言に伴い分散登校となりましたが、先生方はChromeBookを用いて教室を分割して行っています。そのため先生方は工夫しながら授業を展開しています。引き続き生徒が授業で学ぶ喜びを感じられるようにきめ細かい指導を続けます。	A	A	緊急事態宣言に伴い分散登校となった際に、授業は配付されたChromeBookを用いて授業を実施しました。その後、通常授業になっても先生と生徒はChromeBookを用いて、授業の連絡やレポート提出などで活用しています。さらに生徒が出席停止になった場合でも、個別にChromeBookを用いて連絡し、生徒が不安にならないよう適切に支援しています。
A	A	D3ゼミを計画的に実施することで、先生方も計画的に実施していただき、生徒の学習意欲の向上に熱心に取り組んでいます。そのため、D3ゼミの生徒の半数以上は成績を伸ばすことができました。引き続き、組織力で生徒の学習意欲の向上を目指します。	B	A	基礎力診断テスト結果を活用した表彰や成績への反映、D3ゼミ等の実施に伴い、前向きに取り組む生徒が増え、結果も向上しました。定期テストにおいても生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、家庭学習の習慣化を目指します。
A	B	問題行動で指導される生徒は減少傾向にあります。学年会議・生徒指導会議以外にも生徒の情報共有を行い、問題行動の未然防止策を検討し、実施します。現時点では、昨年度と比較して不登校および退学者は減少傾向にあります。教育相談係の会議を月1回実施し生徒情報の共有をしています。また、特別支援が必要な生徒には個別の指導計画を作成し、実施します。	B	B	多くの先生方の協力により、問題行動は昨年と同様に少ない状況でした。生徒は落ち着いた状況です。今年度も生活指導係会議等を実施し、情報共有を図りながら、生徒指導に取り組むことができました。今後も全職員が共通理解のもと指導していくことを心がけます。 昨年度と比較して不登校および退学者は減少傾向にあります。教育相談係の会議および、不登校等対策委員会を月1回実施し生徒情報の共有をして、指導計画や指導方法の検討を行い、個別の対応にも丁寧に対応することを心がけます。
A	B	いじめの早期発見のため、クラスでの面談をはじめ、学校生活アンケートを月1回実施、教育相談係との連携、いじめ防止対策委員会を実施します。	A	B	今後も日常の生徒観察をはじめ、月に一度実施したアンケート結果を踏まえて、いじめの早期発見・早期解決に努めていきます。
A	B	現時点では、登校時に遅刻をする生徒は少ない状況です。家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。	A	A	新型コロナウイルス感染防止のため、分散登校がりましたが、オンラインでのHR指導や教科指導をおとて、家庭との連携を密にして、基本的な生活習慣や学習習慣の確立を図ることができました。今後も欠席、遅刻、早退を減少させるために、家庭との連携を図っていきます。
A	B	校内掲示板で各部活動のポスターを掲示し、部員の増加に努めました。新型コロナウイルスの影響等で活動が制限されていますが、職員が部活指導しやすい体制づくりに努めます。	B	B	新型コロナウイルス感染防止のため、各部活動は活動を制限することとなりました。その中でも双樹祭を開催し、文化部の発表する機会を作ることができました。今後も部活動の活性化により、前向きな生徒を増やし、明るい雰囲気づくりにつなげていきます。
			B	B	今後も、1年生の段階から進路決定する3年生の各段階まで、体系的な計画立案を行い、又、職員による企業訪問を継続し、情報収集及び発信を継続して行います。 公務員や医療系、大学進学を希望する生徒への早期情報提供を行い、外部模試や対策セミナー等の活用を図ります。
A	B	進路に関する配布物に満足されている保護者の割合が90.1%でした。コロナ禍の下、PTA総会や保護者会での説明会は実施できませんでしたが、「進路の手引き」や「進路だより」を発行しました。直接配布できない場合は生徒を通じて配布しています。	A	A	進路指導部から配布される資料について、役立っているという生徒が92.2%である。今後も3年生の進路活動体験などを中心に紹介すると共に、1・2年生の活動も取り上げ、進路に関する関心を高めます。
A	B	進路実現に向けて取り組んでいる生徒は82.5%、進路セミナーを通じて進路意識が高まった生徒は88.3%でした。 コロナ禍の下、外部との接触や集会方式のセミナー開催は難しいのですが、キャリアパスポートへの記録、進路学習や各種進路情報の提供を通じ支援して行きます。	A	A	進路実現に向けて取り組んでいる生徒は85.2%、進路セミナーを通じて進路意識が高まった生徒は93.1%でした。 今後も、キャリアパスポートへの記録、進路学習や各種進路情報の提供を通じ進路意識の向上を図ります。 又、外部講師によるワークショップ型セミナーや校内の進路状況などの説明会などを今後も継続して行い、個々の生徒の進路希望に応じた具体的なサポートを行います。
A	A	コロナ感染防止対策やその取り組みなど、常に情報発信をしています。タイムリーに情報発信に心掛け、教育活動に貢献していると判断できます。	A	A	コロナ感染の終息が見えない中、生徒へのきめ細かい対応や授業確保等の情報を、適切な通信機器を活用して、生徒に利益となり保護者の不安材料とならないよう、適切なタイミングで情報を発信してまいります。
B	A	生徒たちも今年度からChromeBookを使い始めたので、まだまだ使い慣れていません。	A	A	2学期はオンライン授業が取り入れられ、大分使い慣れてきました。引き続き有効活用をすすめます。
B	A	今年度よりオンライン授業が取り入れられたので、まだまだ納得できるような改善策はできていません。	A	A	オンライン授業に対して、さらなる効果的な授業改善をすすめます。